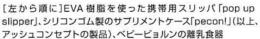
Lesson 2 Color Material

エラストマー・新開発素材と カラーデザイン

「軟らかいプラスチック」といわれるエラストマーは、常温でもゴム状の弾力性を もつ物質で、カメラの手が触れる部分、時計バンド、マウスシート、幼児用の食 器の底部、自動車部品など利用範囲は広がりつつあります。おもに材料着色や 転写による着色、色彩や幾何模様などのバターン加工がよく行われています。新 開発素材には、テニスラケットやゴルフクラブなどに使われているカーボンファイ バー (炭素繊維)、ガラスを繊維状にしたグラスファイバーなどがあります。







*エラストマー [elastomer] は弾力のある[elastic]、重合体 [polymer] を組み合わせた造語。ゴムの弾性とプラスチックの 可塑性をあわせもつ素材で、ゴムもエラストマーの一種といえる。

Column

プロダクトデザイナー・川崎和男氏の真骨頂

サラ・ペイリン元副大統領候補のメガネをデザインしたことで 世界中にその名がとどろいた川崎和男氏のモノ作り魂を拝見。 「メガネのデザインというと、普通は形だけのデザイン、と考え るでしょう。でも僕は、独自の計算式・数式を用いて部品数を決 定したり、新素材を開発する、というところから行います。(中 略)素材に関しては、肌に一番やさしくて金属アレルギーを起 こさない、とか、紫外線や整髪料の影響をうけない、といった 素材を科学的に開発していきます。

(中略)シリコン系のものは、どんなにそこのところに紫外線の UVクリームを塗っていても、そこは完全にレンズ効果となっ てしまって紫外線をうけてしまいます。将来、人によってはシミ になる可能性があります。それに、シリコン系というのは、生体 との適合性がないことがわかってきました。人間の皮膚には不 適性です。僕のメガネの場合は、シリコン系の素材を使ってい kazuo_kawasaki3_4db4.html



ません。高密度なポリマーで作るエラストマーというエンジニ アリングプラスチックスであり、それを耳あての部分などに応 用しているんです。これは、肌とのかけ心地が非常に快適で、整 髪料や紫外線に対する、経年変化はありません。

(中略)形や値段ばかり意識せず、そのような視点で日本人 もメガネを選んでくれたらいいなと思います。」(川崎和男 artgene.blog より)

http://artgene.blog.ocn.ne.jp/kawasaki/2008/12/

035

『カラーデザイン公式ガイド [表現編] supported by Pantone カラーマーケティングと色彩計画』「Column プロダクトデザイナー・川崎和男氏の真骨頂」 株式会社美術出版社 pp.35-pp.35 全 1p